

# 風力発電 効果実証も

第17回県高校理数系課題研究発表会が10日、弘前大学で開かれた。今年は文科省からSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)に指定された弘前南高校が初参加し、生徒らが日

弘  
前

## 県高校理数系課題発表会

常の疑問を科学的アプローチで調査・研究した結果を互いに発表し合い、学びと交流を深めた。(田中康貴)

SSH指定  
4校200人が交流



県高等学校長協会理数科部会の主催。弘前南のほか、五所川原、三本木、八戸北の4高校から約200人が参加し、18グループが発表を行った。  
発表会は▽数学・地学▽物理▽化学▽生物の4分科会別に実施し、弘大の各分野の担当教員らがグループの調査研究についてアドバイスをした。  
物理系分科会では5グループが発表。弘前南高校1年の栗原孔明グループで取り組んだ課題研究について発表する弘前南高の生徒ら

さんのグループは「羽の形による風力発電効率の違いについて」と題して、従来の3枚羽風車とは異なるループウイング型風車の特長を調査した。  
栗原さんはループ

ウイングのほか、素材や角度が異なる3枚羽風車など計4種類の風車を用いた対照実験を実施。回転から得られるモーターの電圧などから各風車の効率を求め、ループウイングの特色を提示した。

※この画像は当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp